

町民のひろば

このたび本紙に「町民のひろば」のタイトル欄を設けました。皆さんの日常生活の中で、いろいろな出来事、生活上の知恵等、広く町民にお知らせし楽しく活用していただくため、何でも結構ですので投稿をお願いします。(二百文字、写真可) 尚、身近な行事や催しなどもありましたらお知らせください。宛先「横芝町横芝六三六 役場企画課広報係」

うちの赤ちゃん

農業 川島行雄さん(北清水・28)の長男
裕一くん
(51年11月1日生まれ)
母親 節子さん(25)

「生後10ヶ月ちよつとで歩きだし、家族をビックリさせました。離乳もあとわずか。ワンワン(犬) プー(車) もわかります。」



親豚は純粋種を選んで

—畜産共進会にあたり 寺田 繁(坂田)—

十月七日におこなわれた第二回横芝町畜産共進会で、私の種豚グリーグ・サクセス・ゲリット二九〇号が、横芝町長賞を獲得しました。これも町農業振興会と、農協畜

産係のかたがたの日ごろの御指導御協力のおかげと感謝しています。私は現在、肉豚仔豚生産農家を営んでいます。養豚経営は、肉質のよい経済性のある豚を生産して

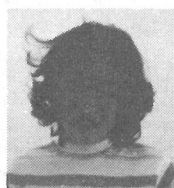
るのですが、今の豚は雑品種が多く、雑品種のなかでの品種交配下では品種の特性を生かした肉質のよい豚ができません。肉質のよい豚を生産するにはどうすればよいのか—それには基

第七回を迎えた千葉県洋上青年教養大学に、機会を得て参加してきました。

青年が集い、団体活動を通して自己の向上を図るとともに、地域社会に奉仕、貢献することは大変有意義なことですが、これを実践していくためには、リーダーとなる者の果たす役割、熱意というものが非常に重要となります。

洋上大学とは、このようにリーダーに必要となる知識、技術などを学んでもらうことを目的として、毎年千葉県が実施しているものです。

六月十九日、小雨降る千葉港を



洋上大学に参加して

土屋 泉(牛熊)

出発。途中、兵庫県淡路島の国立淡路青年の家で一泊、ここで文教大学の森井利夫先生の「青年期における社会的課題」についての講演を受けた。先生の話しをまとめ

てみると「〇理想をもって努力する、〇生涯かかって持続する、〇青年期において、社会性、社交性、ボランティアの成長が日本の成長になる」との事だった。私はこの講演を受けて、自分自身に問いかけた。自分の場合は農業をやりながら青年団活動をしているが、今まで、本団に団体活動に意欲をもって臨んだであろうか、私自信成長しているのだろうか—

礎となる親豚に純粋種を選んで、一代雑種の良い仔豚を生産することだ、と考えました。

畜産共進会での受賞をもとに今後も肉質向上と、より良き養豚経営をめざして、尚一層努力していきたいと思っています。



と。そしてこのような講演を、いまの私達にはたくさん聞く必要があり、また聞かなければならないと思った。このあと、地元の新潟町青年団との交歓会が行われた。六月下旬の淡路島は、玉ねぎの取入れと田植とが重なり、一年中で一番忙しい時期なのに、私達の研修の為に心よく参加してくれ、ただ頭の下がる思いだった。

三日目に高松、四日目に和歌山県勝浦の文化財見学。コレラで騒がしている県なので、健康には皆注意した。その間、船内では班別討議が長時間にわたり行われた。各団体やサークル、グループなどの活動状況、現在の問題点、将来の展望など自分の意見を折混せてテキパキと発言、さすが洋上大学に参加しているのだと痛感した。五日目には討議の合間をぬって大島に寄港、数時間ではあつたがお土産を買ったりの自由時間を過ごし、再び乗船最後の全体討議、各班で活発な意見を発表、県教育長の久保田先生の講評のあと閉講式。四泊五日の洋上大学はここに幕を閉じた。

思い出多き青春時代を、この洋上大学の参加で、より一層の思い出が出来たと思います。

